

■ はじめに ～日本の災害時における動物の避難について～

日本においては、「ペット防災」という言葉が徐々に定着し、「ペット同行避難」という言葉も社会に浸透してきています。

最初に、ペットの避難対策がどのように変化してきたのか、過去の災害時避難の歴史を振り返ってみましょう。

✔ 過去の災害時避難の歴史

大島三原山の噴火災害（1986年）

避難の際に多くのペットが乗船できなかったことから、避難を拒み、島に残った飼い主様がいたことが課題になった。

※実際の内容と異なる場合があります

雲仙普賢岳の噴火災害（1991年）

避難の緊急性から、ペットを放して避難せざるを得ない状況が生じた。

兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）（1995年）

多くのヒトや動物たちが被災し、大規模な救援活動が行われ、ペットのための保護シェルターを設置。

約2年に渡るペットの為の救援活動が行われ、この時集まった支援金残金を基金として、1996年に動物関係団体等による「緊急災害時動物救援本部（後にペット災害対策推進協会となり2019年に解散）」が設置された。

大規模災害発生に官民が連系して取り組む体制整備の第一歩となった。

執筆者

Hirai Junko
平井 潤子

人と動物の防災を考える市民ネットワーク NPO法人ANICE（アナイス） 理事長
公益社団法人 東京都獣医師会 顧問
公益社団法人 日本獣医師会 危機管理室 統括補佐
公益財団法人 日本動物愛護協会 評議員

■ 活動歴

2001年、三宅島噴火災害動物救援活動を機に、25年以上ペットの避難対策に係る活動に取り組む。動物災害に関する国（環境省）や地方自治体のガイドライン作成・広域支援訓練、被災地での調査・救援活動等に従事。
東京都獣医師会（顧問）・日本獣医師会（危機管理室統括補佐）においても災害対策に従事。

